

働く高齢者 4人に1人 65歳以上の人口、最多の3640万人

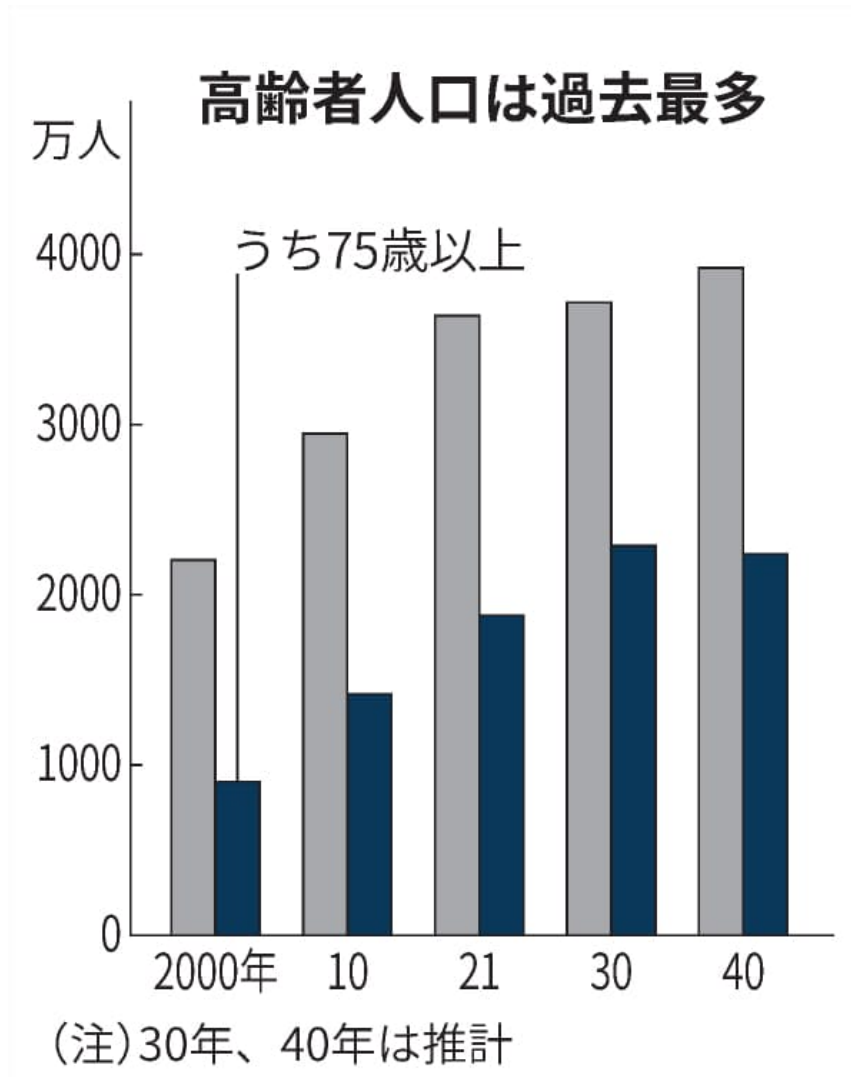
2021/9/19 17:00

日本経済新聞 電子版



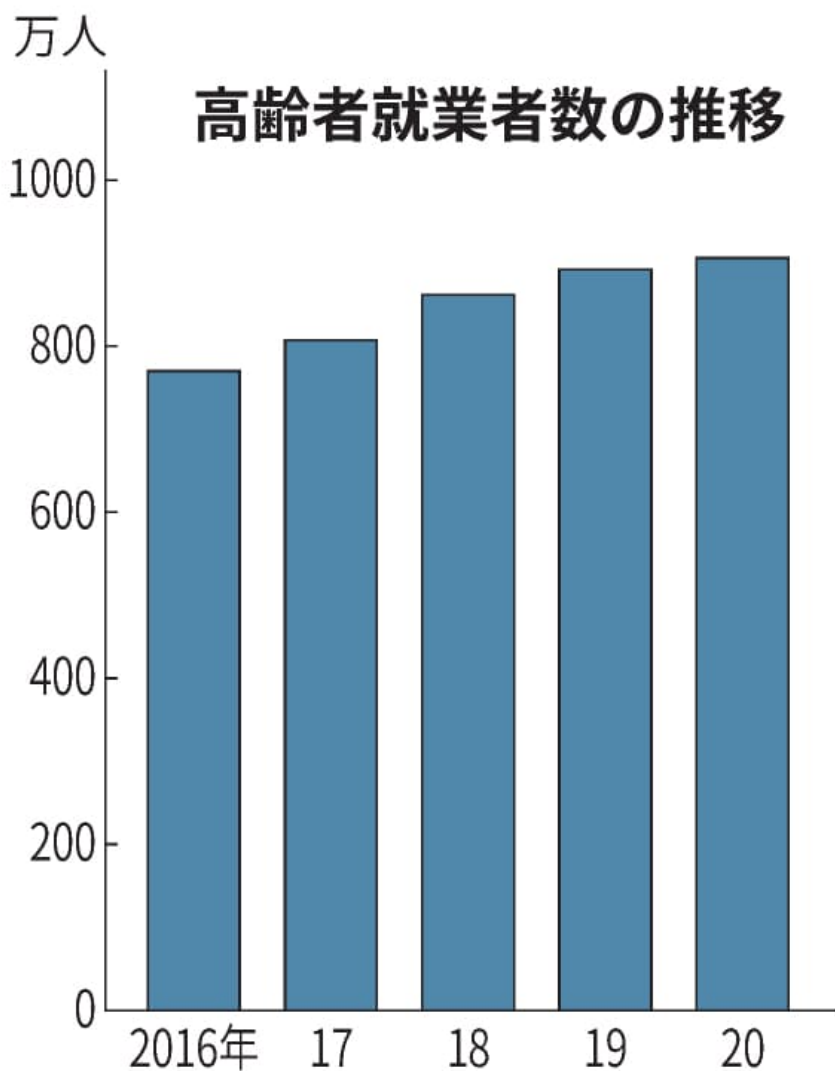
特別養護老人ホームの入所者と介護スタッフ

総務省は20日の敬老の日にあわせ、65歳以上の高齢者に関する統計を公表した。15日時点の人口推計によると65歳以上の高齢者人口は2020年より22万人増えて3640万人だった。総人口に占める割合は0.3ポイント伸び29.1%と過去最高を更新した。就業率は20年で25.1%と9年連続の上昇となった。



「団塊の世代」と呼ばれる 1947～49 年生まれを含む 70 歳以上の人口は 61 万人増え、2852 万人となった。後期高齢者医療制度の対象となる 75 歳以上は 1880 万人に上った。高齢化にともない社会保障制度の見直しも議論は避けられない。

総務省によると、高齢者の総人口に占める割合は世界 201 の国・地域のなかで最も高い。2 位のイタリアを 6 ポイント近く上回る。国立社会保障・人口問題研究所の推計では今後も上昇を続け、2040 年には 35.3%まで上がる見込みだ。



働く高齢者は数も割合も増えている。65 歳以上の就業者数は 906 万人と 17 年連続で伸びた。15 歳以上の就業者数に占める 65 歳以上の割合は 13.6%と過去最高を記録した。

20 年の高齢者の就業率は 25.1%で男性が 34.2%、女性が 18%だった。他の主要国は米国が 18%、カナダ 12.8%、英国 10.5%、ドイツ 7.4%、イタリア 5%、フランス 3.3%と日本より低い。韓国は 34.1%と高かった。

日本で就業している高齢者の半数は企業が雇用している。そのうち 8 割近くはパートやアルバイトなどの非正規雇用だった。非正規は 10 年前に比べて 227 万人増え、割合は 7.6 ポイント上がった。

業種別に高齢の就業者数を見ると、卸売業・小売業が最多の 128 万人。農業や林業が 106 万人、サービス業 104 万人、製造業が 92 万人と続いた。

各産業の就業者に占める高齢者の割合を見ると農業・林業が 53%と最も高い。不動産・物品賃貸業が 26.4%で続いた。